

ショートショート

## 漂流夫婦

渡辺鴨禾

結婚して、三年目に突然新型コロナウイルスが、世界中の経済活動を休止させ、俺はその影響で、リストラされてしまった。うどん店の店長だったが、外出自粛を政府が訴えたため、客も来なくなり、店も休業、俺もお払い箱となってしまった。妻に話すと、

「仕方がないよ、コロナにかかってないだけ、まだ運があるよ。」

と、言ってくれて、ほっとした。隣人も、向かいの住人も、仕事を失くしたようだった。いつまで自粛しなければいいのか、出口の見えない暗闇にいるみたいだ。

飲食店は、人が自由に動けても、繁盛するのは、並大抵ではない。このような状態が、半年も続けば、廃業する店も続出するだろう。

ほかの業種を探すしかない。スーパリーのチラシの求人募集が目に残り、早速近くのスーパーに行き、簡単な面接を受け、翌日から、精肉売り場で働くようになった。やれやれ！と思った。歩いて二分で着くスーパーなので、スーパー側としても、都合が良いようだった。

4月の22日、まだ寒く、6時に家に帰ると、夕食の用意が出来ていた。妻が話しかけてきた。

「お疲れさま！」

労ってくれた。すぐ夕食が食べられて風呂に入ると、至福感が沸き起こってきた。首になっても、すぐに仕事をするのができ、二分とはかからない職場もラッキーだと思えた。

失業保険に頼らずに済んだ。俺は30歳だ。夢など持たないから、その折々の景気動向に添った仕事を転々とし、いま再びビジネス漂流しだしている。コロナ騒動が落ち着いたから、また別の仕事にチャレンジしてみようと思っている。一カ所に長いこと居られない習性があるのかも知れない。楽しんで金儲けの仕事は、ヤバイ犯罪仕事だ。やはり、犯罪に関わりたくないから、友人も選んできたつもりだ。

妻とは、知人の紹介で付き合うことになり、彼女は当時、テレフォンアポイントの仕事をしていた。

俺も妻も、結婚して判ったことは、仕事が長く続かないことだった。遊牧人種のように、移転や転職をし、子どもなど作れない。所得に波があり、貯金もない折に、コロナウイルス騒動に巻き込まれてしまった。妻は今、専業主婦としての仕事に励んでいる。

会話も、ケイタイでやり取りして、密着しないように気をつけあってきた。

希望を言えば、俺たちは若く、コロナウイルスを退治する新薬が普及されることだ。二人のドラマは、始まったばかりだ。ニュースでコロナの影響で首になった夫に、妻が暴言を吐き、それに怒った夫が妻を殴り、倒れた妻がテーブルの角に頭をぶっつけて死んでしまい、夫は、妻殺しの罪で逮捕された。夫婦喧嘩だったものが、エスカレートして犯罪者になるなんて、常人同士も思ってもいなかったことだろう。言葉のDVは、時に殺意を湧かしかねない。俺も気を付けなくてはと、自重するようになった。なるべく「ありがとう」のことは妻に声掛けするようになった。

コロナ騒動で夫が変わった気がする。うどん店の店長を首になったのがショックだったのかも知れないが、何かにつけ、「ありがとう」と、言うようになったのは、愕いた。コロナウイルスになると、若い人でも死に至る病だと、毎日ニュースで聞き、コロナ感染患者は、死ぬかもしれないと、死を予期して生きているのだろうか。私も何時コロナにかかって死ぬとも限らない。毎日が不安だ。両親や友人にメールや電話をして、安否確認するこの頃だ。

夫と結婚して判ったのは、上司運がないために、いつも夫がキレてしまって、会社を自ら辞めるのが常のパターンだったのに、今度は社長から首を宣告されてしまった。そのことが未だに心の傷となって残っているようだ。もう、会社員と思わず、個人経営者と思うでしょう。その折々で扱う商品が違うだけだと思えばいい、と私は思っている。

私も長く続いて、4年だ。最短で2カ月。首になったり、体調不良になって、働けなくなったりで、私も様々な仕事をしてきたが、若さで乗り切れてきた。でも、コロナウイルスは、若くても死ぬと判ってから、死は均等になった。老いた人でも死なない人が現れた。世界中の人々が、新型コロナウイルスと戦争をしているのだ。静かな戦争だ。

人を分断するのが、コロナウイルスの戦法のようなのだ。私たちには、スマホやコンピューターがあるので、分断されることはない。

夫はキレやすいが、仕事運はあるようだ。転職するたびに、給料がアップしていくのが嬉しい。

私も病気になるないように、気を付けよう。コロナ殺人や、コロナ離婚が増えているようだ。

感謝されると、やる気も湧くというものだ。

結婚してびっくりしたのは、主婦は褒められず、けなされたり、嫌味を言われることがほとんどで、しかもタダ働きで、小遣いもないことだ。全く！